



異学年交流の意義

校長 武田 泰之

本校では、子どもたちが異学年集団で活動することを通して、協力し合ったり、励まし合ったりすることを学び、望ましい集団活動ができるようにすることや友だちに対する思いやりの心を養いよりよい人間関係をはぐくむことを目的として「なかよし集会」を行っています。

ひまわり学級の子どもたちも含め、1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生がペア学級をつくり、1年間で10回ほど顔を合わせ、校庭で鬼ごっこやドッジボール、教室でフルーツバスケットやじゃんけんゲームなどを行っています。それぞれの違いを受け止めながらお互いのよさを認め合うとともに、声を掛け合ったり、助け合ったりすることの大切さや感謝の気持ちをもつことができる異学年交流は、極めて教育的意義の高い取組であると考えています。

「なかよし集会」では、4、5、6年生の子どもたちが、リーダーとして1、2、3年生の子どもたちの意見をまとめたり、リーダーシップを発揮したりすることが必要になります。活動においては、上学年の子どもだけではなく、下学年の子どもたちも協力しなくてはなりません。グループで決めた活動のめあてを意識し、めあてを達成するためにお兄さんやお姉さんの話をよく聞いて行動すること、約束を守ったりマナーを守ったりしながら活動することが求められます。集団での活動は、リーダーとして頑張る人を支えていく力となるフォロワーシップがリーダーシップとともに必要になります。異学年交流のペア学年の活動では、上学年、下学年を問わず、リーダーとしての立場や役割を担う人が中心となり、フォロワーとしてのメンバーの協力が集団の活動を支えているということも、子どもたちが気付くことができるよう担当教員が声をかけています。



【なかよし集会で交流する子どもの様子】

「人は出会って知人となり、語り合って友になり、共に汗して仲間となる」という石川啄木の言葉があります。学年の違う子どもたちが出会い、顔と名前が覚えられるようになった今、「なかよし集会」という学年を超えたかわりを通して「知人」から「友人」になることを期待しています。もちろん子ども同士のかかわりにおいては、楽しいことばかりではないと思います。困ったことやうまくいかないこと、などにも出会うはずです。そんなとき、お互いに折り合いをつけ、助け合い励まし合う姿が見られることで、「仲間」になれるのではないかと思います。容易に実現できないかもしれませんが、異学年の交流の場面だけでなく、大砂土東小学校のすべての子どもたちが、日々の学校生活の中で、お互いのことを考えながら自然に助け合う姿が見られる仲間となれるよう、3月までの成長を期待したいと思っています。

11月29日(金)には、「松の子フェスティバル」を行います。「なかよし集会」でペアを組んでいる学級の子どもたちが、新聞紙や段ボールなどを活用して、わなげ遊び、ボーリング遊びなどの催しをお店屋さんごっことして交流し合います。そこでは、学年を超えて子ども同士笑顔で楽しく交流することが想像できます。今年度から、さらに自主性、創造性、協調性などはぐくむことを目指し、異学年の子どもたちが、話し合い相談し合いながら、お店の内容を決められる時間を設けました。普段接していない異学年の子ども同士だからこそ、お互いを思いやり理解しようとする意識が高まる大きな機会になると考えています。

異学年のペア活動を通して、大きく成長していく子どもたちの姿が見られるよう、引き続き、教育活動の充実に努めてまいります。